

NAGASAKI

12th DELEGATION

ナガサキ・ユース代表团
2024活動レポート



広がる、つながる、
平和の輪

7 Q&As

ナガサキ・ユース代表団 に関する7つの基本

Q1 ナガサキ・ユース 代表団って何？

A. 「核兵器廃絶長崎連絡協議会」(PCU-NC) (右ページ囲み参照) が主催する人材育成プログラムです。2013年に第1期の活動が始まりました。次世代を担う長崎の若者が、核兵器や平和の問題を実践的に学び、この分野で活動する国内外の人々と出会うことで、自ら考え、行動する力を身に付けることを目指しています。被爆から79年が過ぎ、被爆者無き時代の到来を見据えての被爆地からの核兵器廃絶のための発信に貢献する若者が育つことを願ってのプログラムです。

Q3 費用は誰が負担するの？

A. 活動にかかる費用は、勉強会の開催や報告会の開催、報告書の作成等基本的に核兵器廃絶長崎連絡協議会が負担します。また、活動内容に海外での活動が含まれる場合は、渡航費および滞在費として一人当たり最大で30万円の補助金が支給されます。海外への渡航に際し30万円を超える部分は個人負担となります。

(金額については、社会情勢により変わる場合があります。)

Q2 誰が応募できるの？

A. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・大学院生、および同程度の年齢の若者です(18~25歳を目安)。高校生(応募時)は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、本プロジェクトの活動を通して、こうした分野での知識や経験を得たいと希望する若者、公式の活動期間(任命時から翌年8月31日まで)が終了した後も何らかの形で『核兵器のない世界』の実現のための活動にかかわっていく意欲のある若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、活動に求められる知識を得るための勉強会や企画、準備のためのミーティングに原則すべて参加可能で、他のメンバーと協力してプログラムに積極的に参加する姿勢が求められます。

Q4 誰がメンバーを選ぶの？

A. 選考は2段階で行われます。1次審査は志望動機などが書面審査されます。2次審査は日・英による面接です。長崎大学及びRECNAの教員だけではなく、他大学の教員・長崎県、長崎市の担当者の参加も得て審査を行います。

ABOUT US

Q5 核問題を専門的に勉強していなくても大丈夫？

A. 大丈夫です。選考後の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢までを幅広く学ぶ機会があります。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の教員に加え元外交官や国連の軍縮担当者など学外の専門家を招いた講義やワークショップも開かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。

Q6 具体的な行動内容は？

A. 大原則は『自分たちのプログラムは自分たちで創る』です。9期生はコロナウイルスの拡大による渡航制限やニューヨークでの核不拡散条約(NPT)再検討会議の延期により、当初の活動計画を大幅に変更することになりました。結果として主にインターネットを使っての様々な活動を展開しました。核軍縮と平和に関する国際的なセミナーやシンポジウム、ウェブ会議への参加、オンラインでの国際プレゼンテーションの主催、そして核軍縮の分野で活動している様々な人々との交流動画の配信などです。そうした活動はまたSNSを使って発信され、多くの人々に共有されます。参加者一人一人が自分の興味や関心、目標に沿って、オリジナルな活動プランを立てていく、というのがナガサキ・ユース代表団の活動の醍醐味と言えるでしょう。

Q7 任期後の予定は？

A. 8月末の任期満了を迎えた後は、「ナガサキ・ユース代表団」のメンバーとして活動する義務はありません。しかし、一人一人が自分の経験を活かし、何らかの形で平和の問題に関わっていくことが期待されます。実際に、ナガサキ・ユース代表団のメンバーだった学生には、全国での平和教育の出前講義や講演、取材、また国際交流イベントへの参加などの依頼が多数舞い込みます。義務ではありませんが、核兵器廃絶長崎連絡協議会からそれらの依頼への協力を依頼されることは珍しくありません、また、核兵器廃絶長崎連絡協議会やRECNAが主催する核問題のセミナーやシンポジウム等、様々なイベントに参加することで、さらに知識や経験を積んでいくことも可能です。ナガサキ・ユース代表団での経験を踏まえて、大学院で核問題を専門に学ぶ道を選んだ人もいます。

『核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)』って何？

「長崎が核攻撃を受けた人類最後の都市に」と願う長崎県民、市民のため、長崎県、長崎市、長崎大学の三者が一体となって、核兵器廃絶に取り組むための枠組みを構築することが検討され、2012年10月4日に核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)を設立いたしました。また、一般会員の長崎県、長崎市、長崎大学に加え、長崎平和推進協会及び国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館も特別会員として参画しております。



長崎研修を通して

廣瀬 貴彌子

(長崎大学大学院工学研究科2年)

他県から多く集まっている私たちは長崎代表として活動する上で長崎での実態を知る必要があると考え、長崎研修を行いました。勉強会を並行して行っており、被害や悲惨さについて学んでいましたが、研修をすることで私たちの想像力の不足を実感しました。城山小学校では案内をいただき、展示を見るだけではわからない当時の状況を詳しく知ることが出来ました。特に、原爆投下後の先生方の行動が学生を思った行動であり先生の目線で考えることが出来ました。また、原爆資料館などで原爆がもたらす被害や悲惨さを実際に目にすることで、核の恐ろしさを再確認することができました。長崎研修を通して、原爆が落とされたという事実を忘れてはいけないということと、私たちが長崎を代表して平和への思いを届ける重要性を改めて感じました。そして、より一層長崎代表として自覚を持ちながら活動するきっかけとなった研修でした。



広島研修を通して

小林 万葉

(長崎大学多文化社会学部2年)

広島研修では、「平和の輪を広げる」というテーマのもと平和への学びを深めました。

1日目には平和公園や原爆ドーム、平和記念資料館を訪れ、被爆者の方から直接お話を聞く機会がありました。「平和の原点は人の心と心のふれあい」という言葉が印象的で、人とのつながりを大切に活動の必要性を感じました。2日目には呉資料館や袋町小学校資料館などを見学し、実際に戦争被害を直接目にしたことで、原子爆弾による被害がどれほど悲惨なものであったかを痛感しました。被爆者の声が聞けなくなる世に突入りしようとしているいま、より一層被爆の実相を継承していくことが大切になってくると思います。また、2日目には平和活動に取り組む学生と交流する機会がありました。特に「平和に対する考え方」を意見交換したことは、とても刺激的な経験となりました。それぞれが考える平和の概念は異なっていますが、その想いや方向性は共通しているように思いました。3日目には広島市教育委員会を訪問し、平和教育は「未来の生き方を考える」教育の根本であることを学びました。

広島研修を通して、私たちは様々な方々と出会い、貴重なお話を聞くことができました。広島についての勉強に加えて、「長崎を最後の被爆地にす」という想いがより大きくなりました。これからもナガサキユースでの活動を通して得た知見を活かし、平和を願う一人の大学生として声を届けていきます。





勉強会報告

江川 航士朗

(長崎大学工学部2年)



ナガサキ・ユース代表団の今後の活動に必要なことの勉強会を自分たちで企画し、各分野の専門家による講義を受講いたしました。

まず、長崎大学鈴木達治郎教授より、「核兵器および原子力発電の基本的な仕組み」と「核兵器の種類」に関する講義をしていただきました。核兵器に関する知識がほとんどなかった私にとって、非常に有意義な学びとなりました。続いて、長崎大学吉田文彦教授からは、「核兵器が使用された経緯」や「各国の核政策」、「核軍縮・不拡散政策」、「現代の世界情勢」に関する講義をしていただきました。今後の活動を行う上で、核兵器を巡る世界情勢の理解が不可欠であり、この講義は非常に重要な内容でした。また、朝長万左衛門長崎大学客員教授による「被爆の医学的影響」に関する講義を通じて、被爆者が直面している困難について深く理解することができました。さらに、長崎大学河合公明教授からは、「国際法および国際人道法の観点から核兵器を捉える」というテーマで講義をいただき、核兵器の使用が国際法上でいかに許されないものであるかを理解することができ、核兵器廃絶の論理を構築するための貴重な知見を得ました。その後、被爆者の山川剛さんより、被爆体験に基づく講話をいただき、被爆者認定を国に認めさせるための苦労についても伺いました。また、弁護士の内藤雅義弁護士には、「黒い雨問題」と「被爆者認定拡大」の困難さについて講義をしていただき、被爆者支援の現状と課題を学びました。長崎大学多文化社会学部の西田充教授からは、「核抑止、軍縮、安全保障」に関する講義を受け、感情に頼るだけでなく、論理的かつ整合性のある軍縮のロジックを構築することの重要性を学びました。さらに、長崎大学多文化社会学部研究科後期博士課程の橋場紀子さんより、「朝鮮から見た長崎原爆」というテーマで講義をいただき、日本以外の視点から原爆に関する問題を見つめなおす貴重な機会となりました。林田光弘元RECNA客員研究委員には、ご自身の平和活動に基づく経験を通じ、平和活動において重要とされる考え方を教えていただきました。最後に平和活動家(被爆者)の竹下芙美さんより、被爆の痕跡を残すことの意義と、次世代への継承の重要性について教えていただきました。これらの講義を通じて、ナガサキ・ユース代表団として活動する上で不可欠な知識と視点を習得することができました。今回の勉強会は、私にとって非常に貴重な学びの場となり、心より感謝申し上げます。



ユースフォーラムを通して

福浦 知葉

(長崎大学工学部2年)

ユースフォーラムでは、ナガサキ・ユース代表団、広島の高校生、ICAN、ユース非核リーダー基金、ジュネーブ大学の学生など、多くの若者が集まり、核兵器のない世界に向けた平和への思いを発表し、意見交換を行いました。

意見交換の中では、参加者全員が「一歩踏み出すことの大切さ」を強調していました。私はこのユースフォーラムを通じて、少しでも若者の声を届けたいという思いからスピーチを行いました。心の中で思っているだけでは、誰にもその思いは伝わりません。実際に発信して初めて、その思いは伝わるのです。だからこそ、小さなことでも周りに伝えていくことが、私たちにできる第一歩であると感じました。国連事務次長の中満泉さんが仰っていたように、今後も若者同士でネットワークを作り、交流し続けることの重要性を改めて実感しました。これからもその意識を持って活動を続けていきたいと思えます。





ジュネーブでの交流を通して

河邊 桜

(長崎大学大学院工学研究科2年)

私たちは7月22日から8月2日にかけてジュネーブで行われたNPT運用検討会議第2回準備委員会を傍聴し、多くの方とお会いし、交流しました。

ジュネーブでの活動や交流を通じて、「核軍縮は何のためにしなければならないのか」という問いが、重要だと感じました。核軍縮と聞くと、つい難しい議論や専門的な知識が必要だと考えがちですが、本質は非常にシンプルです。軍縮は平和を築くために不可欠なものだと考えます。核のリスクが高まっている今こそ、この問題に真剣に向き合う必要があるのではないかと感じました。「長崎を最後の被爆地に」という強い思いを抱く私たちにとって、核兵器が使用された際に何が起るのかを絶えず訴え続けることは、使命であり、極めて重要なことだと考えます。

私たちは、これまでにさまざまな平和教育を受けてきました。他国に比べて平和教育が進んでいる日本に住んでいるからこそ、率先して活動を行い、平和のメッセージを発信していくことができると思います。「核軍縮は一步一步進めるべきだ」というドイツの軍縮大使の言葉は、非常に重要な考えだと共感しました。この一步一步を進めるにあたり、未来を担う若者たちが力を合わせて共に取り組んでいくことが必要だと、韓国ユースとの交流を通じて実感しました。そのためにも「対話」は不可欠です。対話においては、相手を尊重することが重要であるという南アフリカ大使の言葉を心に刻み、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

私たち一人ひとりの活動は小さなものであるかもしれませんが、この活動を絶やすことなく、これからも一歩ずつ平和の実現に向けた努力を続けていきたいと思えます。



対話を通して学んだ平和について

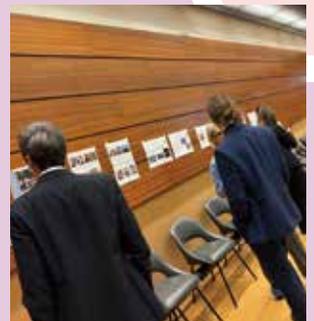
平林 千奈満

(長崎大学大学院教育学研究科2年)

私たちは活動を通して、国や立場は異なっても、平和を願う思いは共通していると気づくことができました。私たちはそうした一人一人の多様な平和 (peace) のかけら (piece) がたくさん集まり、集めた「かけら」を組み合わせることで、誰もが願う平和が完成すると考えました。そこで、私たちは「対話」に焦点を当てたサイドイベントを実施し、それぞれの平和のかけらを交流することで、ともに平和について考えていきたいと考え、「Bring Your Piece of Peace for Dialogue-With Nagasaki Atomic Bomb Exhibition @UNOG-」というサイドイベントを実施しました。

このイベントは5つのパートで構成しました。ブース1からブース3では被爆の実相と「平和の文化」の醸成に向けた長崎の取り組みなどを伝えるパネル展示を行いました。メインブースであるブース4では、来場者とナガサキ・ユース代表団の交流の場として、対話を行いました。ここでは、ゲストスピーカーとして、鈴木長崎市長、馬場長崎県副知事、メリッサ・パークICAN事務局長のお三方にご協力いただき、スピーチをしていただきました。また、ブース5はサイドイベントに参加していただいた皆さまに「あなたにとっての平和とは何ですか?」と質問し、それぞれが持つ平和のイメージや意見を、文章や単語などで自由に書いていただき、平和を願うTシャツを作り上げました。

サイドイベントを通して、自分たちが願う平和な世界、そして平和な状態で満たされるためには、過去から、他者から学び、それを共有し、絶えず守り続けていくことが大切だと気づくことができました。





NY 派遣を通して

金子 真歩

(長崎大学医学部2年)

私は学校の授業スケジュールの関係によりジュネーブでの研修に参加できなかったため、代わりに9/22、23にNYで行われた「未来サミット」に参加させていただきました。未来サミットは持続可能な開発と開発のための資金調達、国際の平和と安全、科学・技術・イノベーション(STI)・そしてデジタル協力、若者および将来世代、グローバルガバナンスの変革について議論が交わされ、「未来のための協定」が成果として採択されました。

私にとっての初めての国際会議は目の前で世界が動いているという緊張感があり、文書が採択された瞬間は会場にいる様々な国が一つになったようでした。

今回のような大きな会議では私たちのような小さな声はなかなか届きづらいです。私たちの「平和の輪」を広げるためにも、日々の活動を大切にし、長崎にいる私たちだから伝えられること、できることをコツコツ続けていきたいと思います。



12 期の活動を振り返って

河合 公明

(RECNA 副センター長)

ナガサキ・ユース代表団第12期生は、昨年12月の任命以来、「平和の輪を広げる」というテーマのもと活動してきました。活動の集約点となる本年7月のジュネーブ派遣では、「長崎の学生代表としての思いを届ける、相手の思いを受け取る」ことを目的に、核不拡散条約(NPT)準備委員会に参加して「対話」を軸に活動を行いました。9月にニューヨークに派遣されたメンバーは、国連本部で開催された「未来サミット」に参加しました。派遣先では、国際会議を傍聴するのみならず、各国大使、国際組織、市民社会の関係者と交流し、サイドイベントを行いました。これら一つひとつを形にするためには、多くの研鑽と準備があり、そこには乗り越えなければならない課題も様々にあったと思います。その課題を乗り越えてきたからこそ、メンバーは、9ヶ月に及ぶ活動を締め括ることができました。「平和な世界をつくるという難題に対し、私たちは対話という一つの解を導いた」メンバーが活動報告会で述べたこの言葉は、第12期生の成長を強く感じさせるものでした。

OG VOICE

(2024.10月現在)



有吉 葉奈子

11期生

(長崎大学薬学部3年)



長崎は、原爆を学び平和を考える「平和学習」、原爆の実態や核廃絶を訴え平和を発信する「平和活動」が盛んです。しかし、日常で真剣に社会問題について議論しあえる人は私の身近にはまだ多くはいませんでした。そんなときにユース代表団の仲間に出会い、様々なことを議論し、一緒に社会と向き合うことができました。夜通し語り合える同世代の仲間ができたことは、ナガサキユース代表団だからこそ経験できたことだと思います。ユース代表団では、学びたいことや発信したいこと、そのために必要なこと、それらすべてを自分たちで考え行動することが求められました。しかし、一から自分たちで考えることでこそ新しいものを生み出すことができ、より成長することができました。大きな達成感だけでなく悔しい思いもたくさんありましたが、その思いが私の新たな原動力となり、今につながっていると感じています。ぜひ挑戦してみてください！

末廣 万葉

11期生

(長崎大学多文化社会学部3年)



私は広島市出身で、進学を機に長崎にきました。ふたつの被爆地で生まれ育ったからこそ伝えられることがあると感じ、ユースに応募しましたが、初めは核に関する知識がほとんどなく、何をすべきかわかりませんでした。しかし、活動を重ねる中で、段々と自分が何を伝えたいのかが明確になり、やりがいを感じるようになりました。ユースの魅力は、出前講座やイベントで自由に自分たちのメッセージを表現できる点です。11期では、ウィーンでのNPT準備委員会のサイドイベントを企画し、多様な背景を持つ人々と対話する貴重な経験を得ました。議長総括が拒否される異例の展開となりましたが、サイドイベントで市民同士の対話から平和が実現可能だと感じました。忙しく大変な時もありましたが、ユースでの経験は自分の成長につながりました。もし迷っているなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。きっと人生の財産になる貴重な経験ができるはずです！

■ 編集発行責任

核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)

※PCU-NCは、長崎県、長崎市、長崎大学の3者による核兵器廃絶のための協議体。

**核兵器廃絶
長崎連絡協議会**
PCU-Nagasaki Council

■ お問い合わせ先

核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14
(長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 内)
TEL:095-819-2252 / FAX 095-819-2165
<https://www.pcu-nc.jp>

「ナガサキ・ユース代表団」公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/nagasakiyouth>

facebook

ナガサキ・ユース代表団

